

**SUPER  
FORMULA  
LIGHTS**

**HELM**  
MOTOR SPORTS





## スーパーフォーミュラ・ライツ挑戦1年目のHELM MOTORSPORTS 大荒れのレース展開の第10戦でチーム初の表彰台を獲得！！

2022年の全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権(SFライツ)は、宮城県にあるスポーツランドSUGOで第4大会を迎えた。早くもシーズン後半戦に突入しているが、HELM MOTORSPORTSはここまでで平木玲次の4位が最上位。「トップドライバーへの登竜門」と位置づけられるSFライツが、やすやすと結果を出せるカテゴリーとは考えていないものの、ライバル勢との差を突き付けられ、厳しい戦いが続いている。なんとかここまでの低迷を打開すべく、より一層の気合でSUGO大会に挑んだ。前戦オートポリス

大会は金曜日に予選が行われるイレギュラーなスケジュールとなったが、今大会は通常通りの土曜日予選が復活。金曜日までは全部で4セッション、計7時間の練習走行が設けられたが、金曜午前中のセッションは土砂降りの雨でほとんどの車両が走行を見合わせた。週末の天気予報は好天だったため、HELM MOTORSPORTSの2台も他チーム同様にこのセッションでの走行を見合わせ、午後にあった2時間のセッションで予選と決勝に向けた最終調整を行った。

公式予選

6月18日 (土)

天候：晴れ

路面状況：ドライ



## Qualifying

かくして、土曜日午前中の公式予選が始まった。直前に行われたスーパーフォーミュラの公式練習が延長されたため、予定の時刻よりも10分遅れてセッションはスタート。HELM MOTORSPORTSの2台は平木湧也、平木玲次の順にコースインし、まずは平木玲次が1分15秒307のベストタイムをマーク。平木湧也は1分16秒094をマークして、1回目のアタックを終える。12台が1回目のアタックを終えた時点で、平木玲次は暫定9番手、平木湧也は12番手につけた。残り時間が7分を切ったところで、各車が2回目のアタックに向かう。全長が約3.6kmしかないスポーツランドSUGOでは、12台が一斉に走り出すと、ライバル車両に引っかけらずに1周アタックをすることはなかなか難しい。それぞれがタイヤのウォームアップをしながら周りとの距離をはかり、何とかクリアラップを獲ろうとする。

平木湧也、平木玲次も前にいる車両との間隔を調整しながらアタック開始。平木玲次はピットに戻っている間にセッティングを微調整し2回目のアタックに臨んだが、これが功を奏し1分14秒798までタイム更新に成功し9位となった。平木湧也は、ピットインの間にセッティング変更を施してコースイン。オートポリス大会から悩まされていたブレーキに関する問題が解消されず、予選の中でも様々なトライを試みた。ベストタイムは1分15秒683まで削ったが、結果は12位となった。

## QF COMMENTS



# 62 Driver HIRAKI Yuya

「オートポリス大会の時からリヤブレーキがロックしてしまう症状がずっと解消せず、SUGOには仕様変更をして入りました。予選も2セットのタイヤを使って2回アタックをしましたが、それぞれ違うセットで試し、いいところも悪いところも発見できました。総合的に良くしていくためにはそのいいところ、悪いところを見極めなければいけないと思っています。

す。走りの面でも詰めなければいけないし、予選は何かかみ合っていない感じで終わってしまいました。決勝レースはスタートも重要になってきますが、SUGOは1コーナーまでの距離も難しいので、スタートで前に出るのはほかのコースよりも大変です。ただレースは何があるか分からないので、最後まであきらめずに戦っていきたくと思います。」



# 63 Driver HIRAKI Reiji

「この週末はアンダーステアに悩まされていて、それを改善するために練習走行からいろいろなことにトライしました。しかし、予選までのところでは問題を解消できず、2回目のアタックで自己ベストの更新はできたものの、上位陣のタイムの上がり幅も大きくリザルトとしても悔

しい結果になってしまいました。ただ、トライしたことで得られたデータや、部分的に良くなったところもあります。周りに比べてデータは不足しているので、決勝レースでもデータを集めながら、少しでもいい方向に進んで行けるよう頑張ります。」

Rd10 決勝レース  
6月18日(土)  
天候：晴れ  
路面状況：ドライ



## Race 1

第10戦決勝レースは、この週末で一番長いレース距離で争われる。スタートは、併催のスーパーフォーミュラ公式予選が終わった後、午後3時25分にスタートした。HELM MOTORSPORTSの2台は、平木玲次が9番グリッド、平木湧也が12番グリッドからのスタートだ。2台は順当にスタートを切ったが、上位グリッドの2台がエンジンストールで動き出せず、さらに1コーナーでライバル勢が接触してしまったため、レースはすぐにセーフティカー(SC)が導入される事態となった。スタートの動き出しから1コーナーまでのポジション取りがまずまずうまくいった平木玲次はこの時点で4番手にポジションアップ。平木湧也もアクシデントを巧みに回避し、7番手につけた。

コースサイドにストップした車両の回収が行われ、4周目が入るところでリスタート。ところが今度は、2番手を争う2台がホームストレート上で接触。ダメージを負った1台がコース上にオイルを巻いてしまったため、レースは赤旗中断となってしまった。

長い赤旗中断を経て、レースは再開。2番手争いからアクシデントに見舞われた2台が戦列を離れ、平木玲次は2番手にポジションを上げてスタート。平木湧也も5番手に上がった。2週のSC先導のあと、8周目に2度目のリスタートが切られる。先頭の車両に食らいついていきたい平木玲次だったが、抜群のスタートダッシュを決められギャップを築かれてしまった。後続もやや離れていたが、1コーナーで一気に接近。ここからしばらくテールトゥノーズの争いが続いた。

一方の平木湧也も、序盤のアクシデントでポジションを下げていたライバルたちの猛追に遭い、厳しい戦いに。何とか抑え込みたいところだったが、10周目に入るところで2台の先行を許し、ポジションを下げってしまった。

レースはその後、中団を走っていた1台がマシントラブルからコースサイドにストップ。これでこのレース3度目のSC導入となる。平木玲次は2位をキープしたまま19周目のリスタートへ。ギャップのないままリスタートが切られ、背後に迫っていた1台が1コーナーで平木玲次をオーバーテイク。これで3番手に後退した平木玲次は、今度は4番手のマシンに接近されてしまう。相手は平木玲次に何度もプレッシャーをかけていくが、「最終コーナーからコーナーにかけてはスリップにつかれると抜かれてしまうので、なんとかそこを死守することに集中しました」と、高い集中力で相手の攻めをはねのけていった。相手は逆に焦ってしまったのか、22周目の1コーナーでオーバーラン。これでポジションを守った平木玲次に、今度は別の1台が接近してくる。レースは、SC導入の周回が多かったことから決められた周回数を走破するより先に最大レース時間に到達することになり、25周でチェッカー。平木玲次は0.1秒差まで後続に詰め寄せられたものの、最後まで高い集中力でしのぎ切り、3位でフィニッシュ。自身初、そしてチームとしても初めての表彰台獲得を果たした。平木湧也は終盤に順位を落としてしまい、8位でチェッカーを受けた。

Rd11 決勝レース  
6月19日（日）  
天候：晴れ  
路面状況：ドライ



## Race 2

この日も朝から強い日差しが差し、うだるような暑さの中で、19週の第11戦決勝レースがスタート。第10戦ではスタート直後からアクシデントが多発したが、このレースでは各車が順当にスタートを切っていた。9番手スタートの平木玲次は動き出しは良かったものの、10番グリッドの車両がするすると加速していき1ポジションダウン。10番手に下がったが、前との差を広げられることなく周回数を重ねていった。しかし、5周目を終えるところで突如ピットイン。タイヤを交換して再度コースへと戻っていく。実は、第10戦の結果で3番グリッドを得ていた第12戦に向け、この第11戦決勝を使ってセットアップを煮詰めていたのだ。タイヤに関しても、より程度のいい方を第12戦に温存するために交換。これで最後尾には下がってしまったものの、残る第12戦に向けてマシンの感触を確かめながら、平木玲次は19周を走り切りチェッカーを受けることになる。

12番グリッドからスタートした平木湧也は、5周目の平木玲次のピットインにより11番手へ。この周、10番手を走るマシンとの差を1秒以内に詰めた平木湧也は、そこからオーバーテイクのチャンスを探っていく。前方は2台で9番手争いを繰り広げていたが、1コーナーで接触し1台がコースオフ。

これにより平木湧也は10番手へと順位を上げ、さらに9番手のマシンに近づいていった。コース前半のセクター1と2ではぐいぐいと近づいていくものの、バックストレッチから先のセクター3、4では逆に離されてしまう。馬の背コーナーへの飛び込みで相手のインを伺うシーンも何度かあったものの、なかなか相手をとらえるところまでは届かない。しかし、そんな平木湧也からのプレッシャーに焦りを感じたのか、13周目の最終コーナーで相手がわずかにアウトにはらむミス。これで一気に近づいた平木湧也は、ホームストレートでアウト側から相手に並びかけた。そのまま2台はサイドバイサイドで1コーナーへ。なんとか前に出たい平木湧也だったが、お互いにアウト側に膨らみながら1コーナーを通過していく中で少しコースをはみ出してしまふ。これがタイムロスとなり、9番手との差が再び広がってしまうことに。このあと、16周目にももう一度接近したものの、決定的なチャンスにはできず、そのままチェッカー。10位フィニッシュとなった。

Rd12 決勝レース  
6月18日(日)  
天候：晴れ  
路面状況：ドライ



## Race 3

この週末最後のレースは、平木玲次が3番グリッドから、平木湧也が8番グリッドからスタート。第11戦中のセッティング変更で好感触を得ていた平木玲次はスタートに集中。

レッドシグナルが消えた瞬間の反応は良かったが、この週末悩まされていたスタート直後の加速が今回も鈍く、1コーナーまでで2台の先行を許し5番手に下がってしまった。一方、後方集団ではスタート直後に接触アクシデントが発生。平木湧也はそのアクシデントを真横に見ることになったが、スピンしながら近づいてくるマシンを回避して1コーナーへ。レースはこれでSCが入り、平木玲次が5番手、平木湧也が7番手でオープニングラップが進んで行った。

しかし、2周目に入ろうかというところで平木湧也がピットイン。クラッチにトラブルが起きてしまい、駆動が伝わらなくなってしまったのだ。なんとかピットには戻ってきたが、残念ながらここで週末最後のレースを終えることになってしまった。

前後が最接近するリスタートで後続との距離をしっかりと保ち、平木玲次は順当にリスタートを決めた。7周目には6番手のマシンが接近。第10戦のアクシデントで後方スタートを余儀なくされたが、マシンのポテンシャルが高い相手に対し、8周目に入った1コーナーで逆転を許すことに。これでポイント獲得圏内ギリギリの6番手となった平木玲次に対し、再び後方から猛追してくるマシンが。こちらも第10戦の影響で後方グリッドに沈んでいたマシンで、トップスピードにも差をつけられている。13周目に入った1コーナーで、アウト側にポジションを獲った相手はそのまま平木玲次をオーバーテイク。これで7番手に下がった平木玲次は、そのまま19周を走破しチェッカー。7位という結果でSUGO大会の週末を終えることとなった。

## Race COMMENTS



# 62 Driver HIRAKI Yuya

「今大会は、コースのどのポイントでも速さが足りなかったのですが、特にコース後半で相手に離されてしまう展開になりました。SUGOは1コーナーが最大のパッシングポイントなので、その前に離されてしまうとレース展開としては非常に厳しく、クルマの動きも不安定で、苦しい週末になりました。次戦は僕たちにとってホームコースといえるもてぎ

での大会です。これまでと違ってプライベートテストができるぐらいインターバルがあくので、これまでのデータを踏まえて、今何ができるのかというのをもう一度見直していきたいと思います。残りはもてぎラウンドを含めて2大会と少なくなっているのですが、なんとか次をターニングポイントにできるよう、頑張ります」



# 63 Driver HIRAKI Reiji

「第11戦では、スターティンググリッドがいい第12戦に向けてレース中にもセット変更を試みましたが、この感触が良かったので期待していました。しかし、その感触が良かったセットからさらにもう一歩上に行くための

調整があまりいい方向に向かず、スタートでもポジションを下げてしまいました。この週末は車をいろんな方向に振ったことでポジティブな面もいくつか見つかりました。ホームコースである次戦もてぎではなんとかいい結果を残したいです」



## NEXT Race

スーパーフォーミュラ・ライツの次戦は8月20～21日にモビリティリゾートもてぎで開催される。

HELM MOTORSPORTにとってホームコースで初めて臨むレースに向けて、これまでに比べて長いインターバルを最大限に利用し、好結果を目指して準備を進める。またこれに先駆け、HELM MOTORSPORTSとして参戦するのは7月9～10日のスーパー耐久SUGO大会。スーパー耐久シリーズでは前戦の富士24時間で、悲願の総合優勝を飾り目下ランキングトップにつけている。これを維持でも死守するとともに、この勢いをスーパーフォーミュラ・ライツにも活かせるよう、最大限に努力していく。

それぞれのカテゴリーに挑むHELM MOTORSPORTSに応援をよろしくお願いいたします。

